

令和4年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（京極幼稚園）

教育目標

遊びを楽しみ、心豊かにたくましく生きる子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し <p>小規模の園であること、多国籍の子どもが在籍していること、発達や家庭環境に課題を抱えた子どもが複数存在することなど、本園の特徴や課題はあるが、一人一人の子どもに寄り添い、その発達を支えることから教育目標である『遊びを楽しみ、心豊かにたくましく生きる子どもの育成』の実現に取り組んできた。特に、個々の育ちを支える個別の支援と共に、保護者への支援や関係施設との連携についても丁寧に取り組みを進めている。半面、ある程度の人数の集団において育つ資質や能力の育成については、十分であったとは言えないことが課題として残る。人数が少ないので、次年度には、人とのかかわりの深まりや子どもが互いに育ち合う保育の在り方についてしっかりと研修していきたい。</p> <p>また、依然として続いているコロナ禍においては、その対策のノウハウが確立してきたとはいえ、様々な行事や活動の在り方については、検討を重ねる日々である。特に、ICTの分野では、積極的に取り組んでいるが、自園のホームページの更新など、今後は更に充実を図りたい。</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <p>幼児期に夢中になって遊ぶことを大切に取り組んでいることは評価できる。アンケートでは全体的にAB評価が多く高評価であるととらえることもできるが、前期と後期を比べると、B評価の割合が大きくなっている。後半にAが減りBが増えているということに、幼稚園としてあり方を考えた方が良い。園に対して保護者がどのようにとらえているかを問い合わせ直すことが必要である。</p> <p>京極幼稚園は地域と共に育ってきた幼稚園であり、その素晴らしい伝統を引き継いでいってほしいと願っている。コロナ禍においても動画で交流を図るなどの取組がなされており、相手に気持ちを届けたいという思いは大切に育てていきたい。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年9月7日	京極幼稚園学校運営協議会
最終評価	令和5年3月9日	京極幼稚園学校運営協議会

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・クラス、異年齢、未就園児、保幼小など、様々な子どもとのかかわりの中で、具体的な子どもの姿を記録し、『人とのかかわり』の視点で、さらなる保育の充実のために、教員同士で反省評価から、よりよい保育の手立てを考える。
- ・幼児が主体的に夢中になって遊びこめる生活や活動、行事について検討し、実践をし、次の取組につなげる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿を見取る
- ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る
- ・アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿を見取る
 - ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る
 - ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD）
- ① 子どもは、幼稚園に親しみを感じ、安心して過ごしている。A65% B35% C0% D0%
- ② 子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じている。A76% B24% C0% D0%
- ③ 子どもは、先生や友達とかかわることを楽しんでいる。A62% B33% C5% D0%
- ④ 子どもは、自分の思いを話したり、友達の思いを聞いたりしている。A30% B60% C10% D0%
- ⑤ 子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる。A67% B33% C0% D0%
- ⑥ 子どもは、手洗い・消毒や身の回りの始末を自分でしようとしている。

A20% B70% C10% D0%

自己評価

分析（成果と課題）

週案の振り返りが十分にできていなかった。

アンケートにおいては、すべての項目についてA・B評価が多く、幼稚園の取組、子どもたちの育ちについての理解がなされていることが伺える。

園内研修でも取り上げている人とのかかわりや友達とのつながりを大切にした保育については、友達とのかかわりを楽しんでいると捉えているものの、思いの伝え合いでは難しさを感じているのではないかと思われる。

自然とのかかわりや飼育、栽培活動については、高い評価となっており、自由記述でも、生き物とのかかわりが命の学びに役立つとの意見が見られた。

手洗いや消毒などにおいては、コロナ感染防止の観点からもある程度の実践は見られるが、長期にわたる取組の中で、子どもの側にしっかりと必要感があるか、子どもたちのみならず、教職員にも気の緩みが出てはいないかという課題も見られる。

分析を踏まえた取組の改善

保育の充実期である後期に、「楽しさ」だけではなく、友達関係の深まりや達成感・充実感を得られる保育を目指したい。中でも、友達関係においては、まずは自分の思いを相手に伝えたいという気持ちをもって表現できるよう、個々の思いを教師が丁寧に受け止め、共に考え、伝わる喜びを味わえるよう援助していく。週案に追記し、次の保育に生かす。

また、生活習慣の確立については、今後も引き続き大切に取り組んでいく。身の周りの始末のような生活習慣については、保護者も教職員も、もっと自分自身でやろうとする力をつけさせたいと願っているので、家庭と協力・連携しながら取り組んでいきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿を見取る
- ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る
- ・アンケート

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に対する満足度は高いと思うので、このまま、取組を続けていってほしい。 ・生活習慣については、取組をすることだけではなく、無意識にできるくらいまで身につけることが大切である。必要性や意味をしっかりと確認し、子どもにも伝えていくことが大切だと思う。 ・学級担任だけではなく、補助の教員や他の教職員もしっかりと保育を見ているということを、もっとアピールしていくと良いと思う。 ・園での生活や行事など、写真を通して見られることがアピールにつながる。 ・母国語が日本語ではない子どもたちとのコミュニケーションが止まってしまうことのないよう、十分な配慮が必要であると思う。 ・アンケート項目での評価だけではなく、こういうことに困っている、悩んでいるなど、保護者の思いがストレートに書かれている自由記述欄を大切にしていく必要がある。 ・3年保育、4年保育が実施されている中、2年保育の難しさを感じる。2年保育でもしっかりと保育できているということや2年保育のメリットも伝えていくことも大切である。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿を見取る ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD） <p>① 子どもは、幼稚園に親しみを感じ、安心して自分を出すことができている。 A50% B50% C0% D0%</p> <p>② 子どもは、自分で遊びを見つけ、楽しんでいる。A50% B50% C0% D0%</p> <p>③ 子どもは、先生や友達とかかわることを楽しんでいる。A56% B44% C0% D0%</p> <p>④ 子どもは、自分の思いを話したり、友達の思いを聞いたりしている。A22% B78% C10% D0%</p> <p>⑤ 子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる。A50% B39% C11% D0%</p> <p>⑥ 子どもは、手洗い・消毒や身の回りの始末を自分でしようとしている。 A28% B55% C17% D0%</p>

自己 評 価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<p>週案については、日々の振り返りなど改善されてきている。また、研究保育や園内研修において研修を重ねることで、保育の充実に向けた取組を進めることができた。個々の子どもに寄り添い丁寧に援助していくことで、子どもが主体的に遊び、遊びを通して充実感や達成感を味わうことができる保育に取り組んできた。しかし、友達関係の深まりや集団として互いに育ち合う姿などの保育の充実については十分であったとは言えない面も見られる。</p> <p>前期の姿を踏まえアンケートの①②ではより高度な評価項目を設定したが、①から⑥すべてにおいてできているというAB評価が多く、一部C評価が見られるもののD評価はない。子どもの育ちや発達を保護者が肯定的にとらえ、幼稚園の教育に理解を示してくれているととらえられる。A評価が少なくB評価が多くなっている項目としては、思いを話す・聞くといったコミュニケーション力や生活習慣の確立等があげられる。</p>

	修の場などを通して、改めて問い合わせていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 年に 2 回のアンケートだけでは保護者の思いが吸い上げられないという思いがあるのではないか。目安箱のように自由にコメントを募るようにしてはどうだろうか。 新しい取組などもあり、幼稚園の工夫が感じられる。 トラブル時など子どもだけでは自分の思いを話しきれないこともあるので、よりきめの細かい対応をどの子どもにもしてもらうことで、自分の思いを話せる姿につながると思う。 生活習慣の獲得については、年長児では進学を見据えて考えるため、厳しい評価になったのではないか。 コロナ対策で、各自のハンカチではなく使い捨てのハンドペーパーを使うようになっており、子どももそのような習慣がついているように思われる。例年通り、ハンカチやタオルなど持参したものを使うように戻した方が良いと思う。

(2) 幼小連携・接続に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 保幼小で、交流についての年間計画やチーム分けを検討する。交流前後の打合せ時には、子ども同士の思い、子どもの姿の読み取りやねらいなどについての共通理解を大切にする。 互いの保育や授業を参観する機会や研究の資料等の共有により、接続に必要な環境や援助を整理し、アプローチカリキュラムに活かす。 日本語指導担当者と連携し、保育に活かす。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間交流計画の作成や京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流、作品展交流 授業参観、懇談会、合同研修会の実施回数。 小学校と連携し、スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムの検討。 就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）。 アンケート
--	--

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間交流計画を作成。 京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流 3 回とその事前・事後研修実施、授業参観 2 回実施、保育参観 1 回来園、合同研修会 1 回実施。 小学校と連携し、スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムの検討は後期実施予定。 就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）は後期実施予定。 アンケート項目（大変そう思う A、そう思う B、あまり思わない C、思わない D）
--	--

⑨幼稚園は保育所・小学校・中学校との連携を大切にしている。A67% B28% C5% D0%

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>保幼小で年間計画を作成したことと、コロナ禍にあっても、交流保育や研修など計画的に実施することができ、また、交流保育の前後での打合せも毎回実施することができた。ただ、コロナ感染拡大もあり、鶴山保育所との交流はできなかった。</p> <p>また、アンケート結果からは、全体としては高評価であったものの、年齢別に見ると、5歳児はほぼ A 評価であったことに対して 4 歳児では B 評価の割合が高く、保小との連携が見えにく</p>
------	---

	<p>い、伝えられていないという課題があると思われる。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>小学校との連携・接続に関しては、後期も継続して取組を進めていきたい。同じ研修資料を聴したうえで、幼小合同で研究協議を行う研修会の企画とその場への保育所への誘いかけを行っているので、それらの機会を通して、スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムの検討も実施していく。また、就学前の情報交換や幼稚園の研究保育の小学校への誘いかけを通して、今後、更に、教員同士の校種間連携も図ることができると思う。</p> <p>また、コロナ禍で、以前に比べると、地域や他校種との連携の機会は減ってはいるが、感染症の状況を見ながら、活動や内容の調整、リモートでの交流等、工夫しながら実施していく。今後、それらの取組を伝える発信力を高めていく必要を感じる。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づく京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流、作品展交流 授業参観、懇談会、合同研修会の実施回数。 ・小学校と連携し、スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムの検討。 ・就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）。 ・アンケート
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スムーズに小学校へ入学できるよう、今後も幼小の連携にしっかりと取り組んでほしい。 ・保幼小のつながりがしっかりとできているのが嬉しい。コロナ禍でなければもっとできると思うと残念である。 ・京極小学校との交流がしっかりとできていることは良いと思うが、地域の京極小学校以外の学校とも同じように交流ができていれば良いのにと思う。また、楽しいイベントとしての取組ではなく、意義や意味付けを確認していくことも大切だと思う。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京極、室町小学校との保育、授業を通しての交流3回とその事前・事後研修実施、京極小学校研究発表等2回参加、自由参観時の小学校全教員の来園、園内展時の小学校からの来園（鑑賞）。 ・小学校と連携し、スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムの検討を開始。 ・就学前の情報交換（支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継）の実施。（3月実施予定） ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD） <p>⑨幼稚園は保育所・小学校・中学校との連携を大切にしている。 A50% B50% C0% D0%</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>小学校、特に京極小学校との交流やその事前・事後の研修、保育・授業の参観を通して、より一層の連携を図ることができた。特に、京極小学校の全教員が幼稚園の保育を参観し、協議会にも参加いただけたことは相互理解の一歩になった。</p> <p>架け橋期のプログラムについては、小学校と連携しながらその作成の方向性を模索している段階であり、次年度、連携をは図りながら進めていきたい。</p> <p>アンケート結果からも、小学校との連携について肯定的なとらえが見られる。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>しっかりとした年間計画をたて、忙しい中でも事前・事後の研修を大切にした交流を進めてきたことは大変有意義であった。また、小学校の授業参観、幼稚園の保育参観等を通して、教職員</p>

	<p>同士の理解を深めることができたので、今後も進めていきたい。</p> <p>来年度の課題としては、架け橋期のプログラムの作成について、小学校と十分な連携を図りながら進めていくことがあげられる。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校との交流が子どもにとって良い刺激になっている。5歳児だけではなく4歳児も一緒に交流できる機会がもっと増えると良いと思う。 ・幼稚園の運動会を小学校で開催していた形に戻してはどうか。広いところでのびのびと走れる経験は大切だと思う。 ・コロナも落ち着いてきているので、リアルでの子ども同士の交流ができると良い。特別なイベントとしてではなく、入学を前提とし小学校でのルールが確認できる機会となると良いと思う。 ・小学校の運営協議会と幼稚園の運営協議会との情報交換会を企画すると良いのではないか。

(3) 預かり保育について

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもが安心して参加できるように、教員同士の情報共有を確実かつ丁寧にし、必要に応じて教職員全体で子どもの安全を確保しながら見守るようにする ・異年齢、少人数だからこそできる活動や、語学ボランティアによる読み聞かせや、講師によるサッカーエクササイズやつくって遊ぶ活動など、特別プログラムも計画する。 ・保護者のニーズに沿いつつ、子どもにとってよりよいかかわりを共に考えていく。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正。 ・預かり保育の参加人数。 ・アンケート
--	--

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正。 ・預かり保育の参加のべ人数 (4月 142名 5月 161名 6月 153名 7月 171名 8月 106名) ・アンケート項目 (大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD) 利用者のみ回答 <p>⑦ 子どもは、おひさま広場(預かり保育)の時間を楽しみにしている。 A69% B26% C0% D5%</p>
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <p>預かり保育の利用率は高く、保護者のニーズの高まりが実感される。保育終了後の子どもたちの遊びの場を保障すること、子育て支援・保護者の就労支援としての幼稚園の役割が大きくなっていると感じられる。中でも、サッカーや「つくってあそぼう」「いろいろな国の言葉で遊ぼう」など、イベントへの参加率は大変高く、今年度夏季休業中に実施した教育委員会主催の「英語に触れて遊ぼう」でも、多くの子どもが参加し楽しんでいた。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今後も、子どもの興味関心にあった活動を工夫し、異年齢のかかわりがより深まるような取組を継続していく。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正。

	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数。 ・アンケート
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな工夫がみられる。 ・イベントなどがあると良い刺激になるのではないか。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動のカリキュラムの作成、事後の振り返り、計画の修正。 ・預かり保育の参加のべ人数 (9月 192名 10月 170名 11月 174名 12月 141名 1月 142名 2月 134名) ・アンケート項目 (大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD) 利用者のみ回答 子どもは、おひさま広場（預かり保育）の時間を楽しみにしている。A62% B25% C13% D0%
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>後期も利用率は高く、前期よりも更に増加している。また、早朝預かり保育の利用も少数ではあるが利用者が出てきている。16時以降に利用する子どもが決まっており、その中で年齢に関わりなく関係が深まってきている様子も見られる。</p> <p>特定の支援の必要な子どもが利用するケースでは、大人が目を離すと危険なため、補助として預かり保育ボランティアが1名つくようにしているのだが、後期に該当児の利用機会が増えたことでボランティアの確保が難しい現状がある。</p> <p>アンケートの結果からも、子ども・保護者が安心して預かり保育を利用している様子が見られる。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>預かり保育の利用が増加していることを踏まえ、日常的に楽しめる取組についてや、16時以降に利用する子どもたちが継続的に取り組める遊びについても、今後もしっかりと検討していく。</p> <p>どうしても目が届きにくくなる預かり保育時間に、安全に子どもたちが過ごせるよう、預かり保育ボランティアの登録を広く進めていきたい。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の内容が通常の保育時間と違っていることでのんびりと過ごす時間を楽しんでいる様子が見られる。 ・預かり保育の様子も細かな申し送りがあるので安心できる。 ・親の都合で利用する場合も、気持ちよく利用できると良いと思う。また、子どものその日の気持ちで利用の有無を決められる自由度があると良いと思う。

(4) 子育ての支援について

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0～3歳の未就園の親子のクラス、満2歳児親子が満3歳児クラスの子どもと関わって遊ぶ機会を定期的にもつ。
--	--

- ・在園児の行事等に参加したり、在園児保護者との交流で子育てなどについて話したりする機会をもち、園の保育の雰囲気や良さを感じてもらえるようにする。
- ・取組の様子をホームページ、チラシ、広報誌等でアピールしたり、小規模保育施設に働きかけたりすることで、より多くの親子に参加してもらえるようにし、入園者増加につなげる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ほっこり子育てひろば実施時の保護者の思いや意見。
- ・園庭開放や未就園児保育の利用者（登録者）数。

中間評価

各種指標結果

- ・ほっこり子育てひろば3回実施。
- ・未就園児保育の利用者（登録者）数。 3歳児うさぎ組5名、2歳児ぶちうさぎ組7名、0～3歳児ひよこ組23名（ぶちうさぎ組7名含む）

自己評価

分析（成果と課題）

うさぎ組登録者は4名で始まったが、他園から1名入り、5名となった。うさぎ組は、欠席もほとんどなく、安定して通園している。ぶちうさぎ組は、7名の登録者があるが、全員がそろうこととは少なく、継続して通える工夫が必要である。また、ひよこ組はイベント時にはたくさんの参加者があるが、日常的には5名程度（ぶちうさぎ組も含めて）であることが多い。

分析を踏まえた取組の改善

来年度、うさぎ組の対象年齢であるぶちうさぎ組の保護者に対して、11月に「うさぎ組説明会」を実施し、来年度の3歳児保育への登録を促す。また、ぶちうさぎ組で、後期から月間絵本を渡したり、欠席が続いている場合は電話等で個別に声かけをしたりなど、幼稚園に足が向くような取組をする。ぶちうさぎ組・ひよこ組の取組や行事の告知など、チラシの配布、ポスターの掲示、ホームページ等を通して、積極的に発信していく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・ほっこり子育てひろば実施時の保護者の思いや意見。
- ・園庭開放や未就園児保育の利用者（登録者）数。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・幼稚園の周りのフェンスに子育て支援等のチラシが貼ってあり、とても良い宣伝になっている。チラシにQRコードなどが記載されていることは効果的である。パッと見てわかる、見やすい（目を引きやすい）工夫をすると良い。
- ・地域の回覧板を活用することで、毎月、アピールすることができる。その際には、日程的な余裕が必要ではあるが。
- ・運動会など、未就園児に対してアピールできる場での内容などを工夫すると良い。
- ・子どもが少なくなっている現実は変わらないので、やはり努力が必要である。「京極幼稚園に通いたい」「京極幼稚園の保育を受けたい」と思えるにはどうすれば良いか。口コミの効果は高い。ネット検索をする際にも、口コミを参考にする保護者も多いと思うので、呼びかけてはどうか。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・ほっこり子育てひろば3回実施。
- ・未就園児保育の利用者（登録者）数。 3歳児うさぎ組5名、2歳児ぶちうさぎ組7名、0～3歳児

ひよこ組 29名 (ぶちうさぎ組 7名含む)

自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<p>ほっこり子育てひろばでは、年間を通してほぼ全員の保護者の参加があり、子育てについての話し合いも充実したものとなった。少人数の園であるからこそ、ほっこり子育てひろばの人数も数人に限られ、互いが気兼ねなく話すことができたのだと思われる。保護者からは、コロナ禍で保護者同士が話す機会が減ったため、このような場があることで気持ちが楽になるとの思いも聞かれた。</p> <p>うさぎ組、ぶちうさぎ組の登録者は前期と変わらず、ひよこ組の登録者数は増加している。しかし、参加率としては、9～12月は順調であったものの12月以降寒くなると急激に減った。特に、2歳児、満3歳児など後半保育園や私立幼稚園に入園し、不参加となるケースも見られた。</p> <p>在園児と一緒に遊んだり歌の発表を見たり、未就園児クラスだけの運動会の実施や未就園児クラス同士で関わって遊ぶなどの企画は大変好評で参加数も多く、また、幼稚園の現状を知つてもらえる良い機会となっている。</p>
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
	<p>発信力の向上を目指し、京極幼稚園における子育て支援の取組を地域に広く知つてもらうため、後期からは地域の回覧板等でチラシを配布してもらえるようにした。また、11月から来年度のうさぎ組、1月からぶちうさぎ組の説明会を実施し、登録を開始した。すぐに数字に結び付く訳ではないが、このような取組の積み重ねが子育て支援の充実につながると思われる。</p> <p>在園児との交流や未就園児同士の交流など、我が子の1年後、2年後の姿を思い浮かべることができたり、幼稚園の保育について知つてもらったりする取組は大変好評であり、また、その意味も大きいと思われる所以、今後も積極的に取り入れていきたい。来年度の説明会や登録については、知つてもらう意義は大きいが、「説明会」と銘打つと保護者にとって敷居が高いと感じる面もあるので、機会をとらえて個別に話す、日常的に繰り返し実施するなどの方法をとるようにする。</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none">・在園児とかかわりをもつことで幼稚園に親しみをもったという声があり、京極幼稚園に親しみを感じられる良い取組であると思う。・保護者の思いに寄り添い、保護者の中も救ってあげられると良いと思う。在園児と未就園児のふれあいだけでなく、在園児の保護者と未就園児の保護者が深いコミュニケーションをとれることも大切だと思う。・京極幼稚園を選ばなかった保護者に声を聞き取ることも参考になると思う。

(5) 地域とのかかわり (社会に開かれた教育課程) について

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none">・学校運営協議会の持ち方、組織の充実を目指し、地域の環境や人材の活用に努める。・教育内容、未就園児教育相談や預かり保育の取組などについて、地域へのチラシ配布やポスター掲示等の協力を依頼し、乳幼児親子が集う場への積極的なアプローチにも努める。・KKPでの積極的な情報発信や共有に努め、地域の子どもたちのより良い育ちにつなげる。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none">・学校運営協議会を中心とした地域の声の聞き取り。

- ・KKPへの参加回数及び教職員との情報共有の有無。
- ・アンケート

中間評価

各種指標結果

- ・学校運営協議会での地域の声の聞き取り。
 - ・KKPへの参加打ち合わせ含めて3回。教職員との情報共有。
 - ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD）
- ⑧子どもは、近隣への遠足や、地域の方の保育参加を通して、京極地域に親しみを感じている。

A52% B38% C10% D0%

自己評価

分析（成果と課題）

学校運営協議会は、1回目を6月に実施し、顔合せとともに、本園の運営方針や年間計画など周知し、理解を得ることができた。9月に行った2回目には、評価についてのご意見もいただくことができた。

コロナ禍で地域行事が少なくなっている現状はあるが、近隣地域への積極的な遠足などの実施から、アンケートでは比較的高評価であったと思われる。

分析を踏まえた取組の改善

学校運営協議会では、出席率も高く、積極的なご意見もいただけているので、現状を大切にしながら継続的に取り組んでいきたい。また、近隣への遠足は、子どもたちにとっても保護者の方にとっても、京極地域に親しみを感じやすい行事であるので、引き続き大切にしていくとともに、行事のねらいや子どもの育ちなどをしっかりと発信していく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・学校運営協議会を中心とした地域の声の聞き取り。
- ・KKPへの参加回数及び教職員との情報共有の有無。
- ・アンケート

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・3年ぶりに今年度復活した京極文化祭では、子どもの遊びのコーナーも新設するので、十分に周知し、楽しい地域『京極』を体感してほしい。体験することで、京極地域への愛着の思いも育っていく。また、そのような場で、京極幼稚園を広く地域にアピールできれば良いと思う。
- ・写真やチラシなど、目に留まるものを掲示していくと良い。
- ・京極地域からの運営協議会の理事が多いので、日ごろから情報が入りやすく、共有もできていって良いと思う。
- ・KKPの取組で、幼児期に大切にしてきたことが中学校での教育にどのようにつながっていくかが理解できた。合同研修の大切さを実感する。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・学校運営協議会での地域の声の聞き取り。
 - ・KKPへの参加打ち合わせ含めて2回。教職員との情報共有。
 - ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD）
- ⑧子どもは、近隣への遠足や、地域の方の保育参加を通して、京極地域に親しみを感じている。

A50% B44% C6% D0%

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>京都御苑への複数回の遠足、賀茂川での凧揚げ、相国寺での継続したマラソンの取組など、地域の自然や施設などに日常的に出かけたり、地域の保育所・介護施設・大学と交流したりすることを通して、子どもや保護者に京極地域への愛着や親しみを感じられる機会となった。直接かかわることが難しい場合でも、ICTの活用により、ビデオレターのような形での交流を行った。</p> <p>今年度の取組の中でも、京極小学校で実施した京極文化祭では、子どもたちが舞台で踊りを披露したり、地域の方の出店を親子で楽しんだりすることができたことは大きな成果である。また、鶴山保育所と互いの絵画展を鑑賞し合うことで、それぞれの学びにつながった。</p> <p>コロナ禍であっても、地域への園外保育や地域との交流を進めることができたことで、アンケートの結果もほぼAB評価となっている。</p>
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>園外保育や京極文化祭、相国寺でのマラソンの取組など、目に見える形での地域とのかかわりについてだけでなく、地域施設や大学との交流や保育所との教職員同士の連携などの発信をしつかりとしていくことで、幼稚園が地域とのつながりを大切にしていることをより理解してもらえるようにする。</p> <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりが深いところが京極幼稚園やこの地域の良いところであると思うので、今後もお祭りなどの関わりを大切にして進めてほしい。京極文化祭では、今年度のスーパーボールすごいのように、子どもが楽しめる企画を続けていくかと思っている。 ・コロナ禍であっても動画をつくって出町茶論との交流を図る取組は、地域を大切にしていることが感じられた。その動画を民生主催のスマイルサロン（独居の高齢者の集まり）にも提供してはどうか。 ・来年度、神楽巡行が3年ぶりに復活するので、幼稚園での踊りの披露や道中の園児の見学など、来年度の取組として実施すると良い。

（6）教職員の働き方改革について

重点目標	<p>教職員が心身共に健康で、互いに学び合い、高め合い、相談し合える風通しの良い明るい職場環境づくりをめざし、自らの働き方に関する意識改革を進める。</p>
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・出退勤管理システムによる客観的な記録をもとに、よりよい働き方や適切な勤務時間を意識し、問題点について考え、改善策を探る。 ・教職員に様々な勤務の形があり、全員が同じ時間帯にそろうことが難しいが、日頃から声を掛け合い、一人一人が欠かせない存在として認め合い、労い合い、尊重し合い、補い合うチームとしての意識を高め、業務にあたるようにする。コロナ禍、少ない園児数などの状況で、教職員の配置、役割分担など検討し、共通理解を図って取り組んでいく。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間及び年休取得状況。 ・前年度との比較検討。

中間評価

各種指標結果

教職員の勤務時間については、管理職・教諭等では昨年度と比較して超過している現状があり、その他の教職員では特に目立った超過は見られない。

自己評価	分析（成果と課題）
	小規模園においては、どうしても本務者に仕事が偏ってしまうことを避けることが難しいことが大きな課題である。働き方改革の一つとして始めた職員朝礼を週3回に減らす取組は、特に大きな問題も生じず、朝の保育準備等の充実につながっている。
	分析を踏まえた取組の改善
	どうしても時間外勤務が生じてしまう時期を除き、退出時刻を守れる状況にある教職員については退出時刻に園を出られるよう、また、それが難しい教職員においても18時過ぎには退出できるよう促すとともに、教職員の意識改革に努める。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none">教職員の勤務時間及び年休取得状況。前年度との比較検討。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none">遅くまで電気がついている日が多く、気になっている。業務の見直しなどもっと効率が上がるような工夫が必要なのではないか。

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	教職員の勤務時間については、管理職・教諭等では昨年度と比較して超過している現状があり、その他の教職員では特に目立った超過はない。(中間評価時との差はあまり見られない)
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	本務者の勤務時間の超過の改善に課題があり、意識改革だけでは改善が難しい。特に、後期は運動会や生活発表会、年度末など大きな行事やまとめの業務が多く、前期の課題解決には至れなかつた。
	分析を踏まえた取組の改善
	業務の見直しなど根本的な改善策が必要であるが、難しい現状がある。大幅に見直すことは難しくても、次回に活用できる記録の残し方や仕事の優先順位の見直し、校務支援員の効率的な活用など、日常的に少し目線を変えることでできる改善から取組を進めたい。計画的に業務を進めることで、企画者だけでなく、実務者や支援者にも仕事を分担することができると考え、今後は、余裕をもって計画できるよう努める。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none">教職員が元気に笑顔で働くことが大切であるので、無理せず改善を進めてほしい。子どもの人数が少ないこともあるので、残業なく定時に帰れるように取り組んでほしい。働き方改革の視点は大切だが、保護者が参加しにくいということもあるので、夕涼み会は土曜日実施をお願いしたい。